

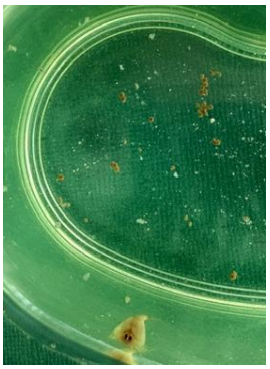
令和８年度 校長よりメッセージ『竜北生、Ｇｏ‼』（竜北生の皆さん・保護者の皆様へ 32）

命は全て「ＰＲＩＣＥＬＥＳＳ」

校長　尾﨑　淳一

体長は通常２～３ｃｍ。頭部に小さな三つの目が並び、背中には丸い甲羅を持っている。北アメリカ、アジア、ヨーロッパなど世界各地に分布しており、日本では田んぼで見られる。
約２億年前からほとんど姿を変えずに生きており、「生きた化石」と呼ばれる。卵は「耐久卵」と言って、乾燥や寒さに数年間耐えることができる。水が掛かると数時間で孵化し、すぐに繁殖を行う。一匹が産む卵の数は１，０００個以上になることもある。
自然環境下では寿命は約１か月程度。生後２週間で２ｃｍ程に成長し、繁殖可能になる。





これがマイペット、２億年ずっと同じ姿で「生きた化石」と呼ばれる「カブトエビ」です。「校長よりメッセージ」の１４号でも少しだけ触れました。今回は２度目の飼育に挑戦し、１０月１日に卵を水に浸しました。すぐに孵化してから２週間、つぶらな瞳がとても可愛らしいのですが、平均寿命から計算すると、残りわずか２週間の命です。呼べば水面に寄ってくる……、などということはありませんが、愛着が湧きます。しかし、２１日に天へ昇りました。

１０月も終わりに近付き、校庭にも枯れ葉が舞い散る頃となりました。竜北生の皆さんは、アメリカの作家であるＯ・ヘンリーの『最後の一葉』（The Last Leaf）という物語を読んだことがありますか。簡単なあらすじは以下のとおりです。

スーとジョンジーは、芸術家が集まるアパートの住人で、画家になることを夢見る仲良しの女の子です。しかし、ジョンジーは重い肺炎にかかり「窓から見える蔦（つた）の葉が全て落ちたとき、私も一緒に死ぬのだわ」と思い込んでしまいました。
スーは同じアパートに住む、老画家のベアマンに相談に行きました。彼はいつか傑作を描くと言いながら、絵筆を握らず、酒におぼれる日々を送っていました。ジョンジーの様子を聞いたベアマンは、「将来ある若い子が死ぬだなんて……、ばかげている！」と激怒するばかりです。
その夜、激しい嵐が吹き荒れ、翌朝には蔦の葉は最後の一枚になってしまいました。ところが、嵐が続いた次の朝も、その一枚は落ちずに残っていたのです。最後の一葉を目にしたジョンジーは、再び生きる希望を見出すことができました。
本当は、一昨日の嵐により、蔦の葉は全て散ってしまっていたのです。ジョンジーが見た「最後の一葉」は、激しい嵐の中、ベアマンが老いた体に鞭打って描いた、最高傑作だったのです。冷たい雨に濡れたベアマンは肺炎にかかり、そのまま亡くなりました……。次の日、スーは、ベアマンが亡くなったことをジョンジーに告げます。そして、最後に残った葉は、ベアマンが嵐の中、壁に描いたものだということも。「ジョンジー、 あれはベアマンさんが命を懸けた『最高傑作』なのよ」と。

ベアマンさんの描いた「一葉」の力で、ジョンジーは命を救われました。また、堕落（だらく）した生活を送っていたベアマンさんも、人生の最後に命を懸けた「最高傑作」を世に残すことができました。「命の大切さ」「生きることの素晴らしさ」を考えながら、ぜひ読んでみてください。私も、もう一度手に取ってみたいと思います。



文化祭が目の前に迫ってきました。各教室や体育館からは、完成に近づいた歌声が聴こえてきます。きっと、素敵な一日になることでしょう。「創立５０周年記念文化祭」も、自分と仲間を信じて、「竜北生、Ｇｏ‼」

「創立５０周年記念文化祭」が近付いてきました。各クラスの合唱も、徐々に完成に近付いてきたようです。コロナ禍を思い起こし、「合唱コン」ができる幸せを実感します。

（令和８年１０月２８日）